

平成22年12月4日

(文責・鎌田)

運営委員会（全体会議）議事録

日 時 ⇒ 平成22年11月24日 午後1時30分～3時30分

場 所 ⇒ 奈良県社会福祉協議会・ミーティングルーム（社会福祉総合センタ2階）

出席者 ⇒ 芦田 秀美、飯田 和代、乾 純子、鎌田 洋、小走 淑代、
笹尾 裕久、澤岡 初子、中垣 修、長浜 康彦、判治 庸好、
古川 泰三、松本久美子、松本はるみ、横尾 敏雄、横尾 光代

資 料 ⇒ 「反省と今後の活動について」（運営委員会資料）

担 当 ⇒ 司会・進行＝横尾 敏雄、書記＝松本久美子

議事要約

主な質疑内容が来年度の活動予定であり、運営委員会の名のもとに、当日の六樹会サロン参加者にも参加を呼びかけ、全体会議として開催した。冒頭、鎌田から「反省と今後の活動について」（運営委員会資料）を基に一括説明・提案を行い、その後、各項目について意識合わせを行った。主な質疑・応答は次のとおりです。

1. 六樹会サロンについて

六樹会サロンの開催時間について、開催時刻を遅らせて、講座時間を短くして、密度の濃い講座にしてはとの問題提起があったが、六樹会サロンは単なるパソコン技術の習得だけでなく、会員相互の親睦の場であり（時間開始前に多くの会員が出席している現状であり）、むしろ、休憩時間を多くとるなど、多くの会員から親睦を重視した運営を行うべきとの意見があり、現状通りとした。

また、来年度の講座内容について、練習問題など反復して欲しいとの意見があった。現在の六樹会サロンは、来年度の健やかサロン応用科につなげるものであり、若干、進行が遅れているが、まずは、予定している講座を修了させて、その後に、来年度の六樹会サロンの講座内容を詰めることとする。

2. 健やかサロンとサポータのあり方について

有償ボランティアとの関連もあり、多くの意見が出された。現状は、サポータとしての参加者も、聴講生としての参加者もまったく同じく行動を行っており、多くの会員の行動は、本来あるべきサポータとしての行動がとれていない。

本格的な活動の初年度としては、サポータの経験を積むことが第一であり、致し方ない面があるが、一人の受講生に複数のサポータが対応するなど、本来サポータとして行ってはいけない行動も見られるところであり、サポータのあり方については、今後、しかるべき時に整理を図りたい

3. サポータの交通費の補助について

多くの会員から、サポータとしての力不足から有償ボランティアとして交通費の補助を受けるのは抵抗があるとの発言があり、また、年度会費・茶話会等への充当などの意見があった。

また、女性会員の多くは、休憩時間の一息のために駄菓子を持参・配布するなど、多くの費用を用いて自費参加しているのが現状である。

いずれにしても本年度の活動費は約60万円あり、一定のルールを決め、それぞれの活動に見合った交通費の補助など配分を考える必要があり、資料提案通り、役員会で検討し、年度末に清算を行うこととした。

4. 来年度の活動について

基本的には、資料提案通り承認され、今後、関係機関と調整を図ることとした。

なお、健やかサロン（宇陀教室・基礎科）の開催については、地元の交渉は長浜会員が窓口を担当するとともに、途中退席した飯田会員・松本会員ら宇陀地区の会員との意識合わせを今一度行い、開催に向けて準備を進めることとした。

5. その他

会員相互の親睦イベントとして、年明けに新年宴会を開催することとし、芦田会員、笹尾会員、松本会員にお世話を依頼した。

(以上)

本資料は、書記の松本会員のメモを参考に、加筆・訂正を行いました。